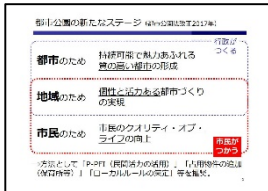




それでは、僕の方から「まちが元気になる公園の使い方」と題しまして、いくつか話題提供していきたいと思います。

これまで、伊藤先生のお話だとか、市からの説明の中で、計画に向けてのいろんな輪郭が見えてきたかと思っています。

僕からは、より、どういう風に使っていくのかとか、併せて、市民のみなさんが、どういう風に、この公園づくり、公園の活用に関わっていくのかを、主に話の中心にしたいと思います。



今ですね、国の方でも、都市公園に対する、大きな期待が高まっているという風に言えるかなと思ってしまして。

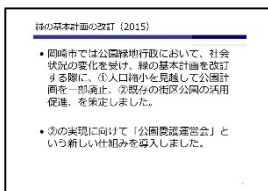
上の方にありますように、都市が質の高いものになっていくためにも、都市公園は大きな機能を果たし得るし、さらには、地域の個性、活力が高まっていくためにも、都市公園は、非常に重要なのではないか、さらには、市民の暮らしの質が高まるところにおいても、非常に都市公園の重要性が語られています。

僕の話は、どちらかというと、下の方の市民の暮らしが高まるという点について、ご案内したいと思います。



僕の方では今、岡崎市の方で取り組んでいる2つの事例と、今後の取り組みについてのヒントをしゃべりたい、その3本立てで行きたいと思います。

1つ目は、公園を「みんなの庭」にしようという取り組みとして、新しい政策として「公園愛護運営会」というものが今、動いています。



これは何かというと、従来、だんだん人が増えていくとかいうような時に、公園をたくさん作るというのが、大事だったかもしれませんが。けれども、今ですね、岡崎市においても、新しい公園をたくさん作るのは、むしろ控えめにして、今ある公園を、どういう風に豊かに使ってもらえるかということに、非常に力を入れているということになります。

そこで出てきたのが、先程も言いました「公園愛護運営会」というものであります。

通常、恐らく、名古屋市さんでもあると思うんですけど、公園愛護会と言いまして、「公園のごみを拾ってね」とか「草刈りをしてね」みたいなことを、地域にお願いをする、そういうのを受け止めていただける方々を、公園愛護会という風に言うんですけど。

岡崎市では、この愛護会に、さらにプラスをして、愛護運営会という形で、管理にとどまらず、活用についても考えてくれる市民のグループを求めている、そこに対して、いろんな支援をするということが始まっています。



例えば、どんなことが起きているのかといいますと、ここは春咲（はるさき）という場所にある、3つの公園の話なんですけれども、この春咲地区は、JRの岡崎のすぐそばの話になります。

この春咲の地区のみなさんに向かって、「みなさんの地域には、3つの

公園がありますね」と、これをどういう風に「もっとうまく使えるでしようか」ということを話し合う時に、最初にやったことは、構想づくりと言って、どういう方向性を目指すのかということを整理しました。

例えば、この公園で、左上にあるのが、れんが公園というんですけれども、こちらの公園は、ちょっと小さめの公園なので、子育て中のお母さんと小さな子たちが遊べる、遊具を中心とした公園で使っていこう。

さらには、下の方にあります、さくら公園というのは、芝生が広がる大きい公園なので、どちらかという、イベント利用みたいなことで、使っていこう。

さらに、右の方にあります、丘公園というのは、森もあるので、緑豊かな公園として使っていこう。

そういうような、大きな方向性を整理しました。



実際にやったことが、こんなことがあります。

さくら公園の方で、「親子で花火の会」というものをやりました。

この地域では、以前から「花火大会とかやりたいよね」という話があったんだけど、「公園で花火を上げたらだめだよね」みたいな話が、地域でくすぶっていたという話があったので、実は、今回岡崎市さんの一つの判断として、公園愛護運営会というものを、きちっと作ってもらった地域に対しては、こういった「火を伴う催しもいいですよ」という風に、実は、規制緩和をしてくれているわけであります。そのような手続きを経ることによって、この春咲の地区では、簡単に言うと、持ち寄り花火の会っていうか、夏の終わりごろ、家で余っちゃった花火を、みんなで公園に集まって上げようよと、ただそれだけのことなんですけれども、それは回覧板でぐる一っと、呼びかけをしたら、200人以上集まる大花火大会が、ここ数年続いているというようなことが、例えば、あります。



他にも、丘公園の話をちょっとするとですね、丘公園はご覧のとおり、小径が森の中に登っていく風にあります、登っていくとなぜか展望不能な展望台があるということになりまして、これはいかんということになるんですけれども、ここで、賢明なる市民のみなさんは、ただ業者さんに切ってもらえということじゃなくて、「何か、もうちょっと優しい森の手入れの仕方がないんだろうか」というような問いかけがありましたので、



名古屋の方から、緑の専門家をお招きして、市民の手で、森を手入れしていこうということで、実際に上手に木を切る、木を傷めない木の切り方、みたいなことを、いろいろと勉強しながら、こういったグループが立ち上がって行って、



ゆくゆく春咲もりもりクラブっていうグループが、今でも元気に、定期的に森の手入れをしていただいております。

もりもりクラブが、取り組んでいる、大きな対象の一つが、竹なんですよね。

竹が繁茂しちゃって、「困ったな」みたいなことがあって、そういうのを定期的に手入れをするということを、例えば、やってるんですけども、ある年に、「7月だよね」と、「何か、七夕イベントをやったらよくないか」みたいな話を言い出すメンバーがいました。

一方で、もりもりクラブは、だいたい登録されているのが10人ぐらいで、実際に実働メンバーが5〜6人なんです。

そうすると、イベントをやるっていうと、「無理じゃない？」みたいな話になって、「うーん、どうしようかな」みたいな、「せっかくだからね」ということで、開発した技は何かというと、「いつもどおり竹の伐採はします」と、「よろしければ取りに来てください」ということを、回覧板で回した、「以上終わり」みたいなことなんですけれども、そうすると、「竹もらえるんならほしい」みたいなご家族が、確か7組ぐらい来て、それをもらって、お家で七夕イベントをやっていただくと。イベントをやる体力は、我々市民グループには、ないけれども、「ご家庭でどうぞ」みたいなことを、やることによって、無理のない形で、こういった七夕を、地域で楽しんでいただくことが、例えば、できたり。

はたまた、こういうのをやっていると、子どもたちにとって、大人も、枝をはらう作業をするんですけども、そういうのを子どもたちにとって、遊びみたいなことになって、行列ができて、竹の手入れを子どもたちも、遊びがてら、やってくれるみたいなことが、例えば、起きるわけですね。

こんな風にして、無理のない形で、公園に関わるっていうことが、すごい大事なかなと。



その、さらなる発展バージョンがもう一つあって、先ほどさくら公園で、花火大会をやると言っていました、でも、それは、せいぜい年に1回楽しい日があるだけです。

一方で、実は、行政からの発注では、年に数回、若干草刈りがされるだけなんで、意外と日常的には、荒れた感じの公園でした。

ところがですね、地域のみなさんが、いろいろと語り合う中で、「うちの地域、グラウンドゴルフやれないよね」みたいな、「やる場がないよね」みたいなのがあって、「だったら、このさくら公園でやればいいじゃん」みたいなことになりまして、回覧板で仲間を求めたところ、20数名の方が、「えっグラウンドゴルフ、やりたい、やりたい」みたいなことになって、グループが立ち上がって、その方々が、必死こいて、草を刈ってはグラウンドゴルフ、草を刈ってはグラウンドゴルフという風なことを、月2回やることによって、今、ほぼいつ行っても、いい状態のグラウンドになっているということになりまして、自分が楽しむことと、公園がきれいになることが、うまく繋がってくと、一番いいんじゃないかなという風に思います。



事例の2つ目は、今この岡崎で、一番売り出したいというか、伝えたいトピックスの一つに、籠田公園（かごだこうえん）というのがあります。

これが2019年7月にリニューアルオープンしたばかりの新しい公園なんですけれども、ここにおいても、公園と市民のみなさんが、どういう風に関われるだろうかといったことが、大きなテーマになってまいりました。



計画がおおよそ、まとまってきた段階において、ここに今、挙がってまするような地域の役員さんっていうかね、町内会の役員さんだとか、あるいは日ごろから公園の清掃に関わっている方々、あるいは商店街の関係者、あるいはボランティアというか、一般の方々にご参加いただきまして、「せっかくできる籠田公園で何ができるだろう」、「私に何に関われるだろう」みたいなことを語り合うワークショップを、3回ばかり、やったんですけれども、例えば、その中で出たトピックスの一つに、今、右上の方にあるんですけれども、数年来、なかなか町内会も、しんどくなってきた「盆踊り、やめちゃったよね」と、だけど、「せっかく籠田公園が新しくなるんだったら、久しぶりに盆踊り、やりたいね」って話が、例えば、出たりとかですね、はたまた、ごみが落ちてない公園でありたいっていう、自分の近所の公園なんで、きれいであってほしいってことが、あるわけです。

そういうことで、私たちが「ごみ拾いを楽しくやろうよ」と、月に1回、住民の顔を合わせる交流の場として、みんな集まりながら、ただ集まるだけじゃなくて、ごみを拾うみたいな、そういうような、サロン活動とごみ拾いが繋がるようなことも、最近たくらみ始められまして、



実際に、左下の映像にあるような感じで、定期的に、お掃除会が住民の活動として、行われていることになります。

さらに、日常の運営の中でも、先ほど伊藤先生のスライドの中でも、噴水の映像がありましたけれども、籠田公園にも噴水がありまして、夏の時期になりますと、水がこう出ると、子どもたちが、わさ一と集まってくるっていう大人気スポットになっています。

そういった子どもたちが、ワイワイ来るのと、その側に、非常に安心して佇める休憩スペースがありまして、子どもたちが遊ぶことと、大人たちが見守ることが、上手に成り立つようなデザインになっているのが、非常にいいな、ということになります。

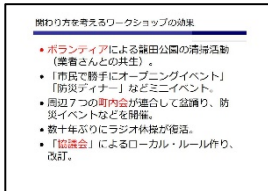
さらには、右下にありますように、移動販売のカフェも来ますんで、ちよっとお茶を飲みながら、子どもたちの遊びを見ながら、みたいな、音楽を楽しみながら、みたいな、伊藤さんのような世界が、ここにも広がっている、ということになります。



そして、さらに、籠田公園から、ぜひ瑞穂公園にヒントになるといいなと思った話が、夜景なんですね。

「夜景が美しい」ってのがあって、「洒落とるな」みたいなのがあって、夜でも、そこそこの賑わいがあるのが、今の籠田公園の魅力ということになります。

実際に、右下の映像にありますように、盆踊り大会、華々しく実現したということが挙げられます。



こういうことを考えてみますと、この関わり、公園と私たちは、どういう風に関われるだろうかっていうことをやったワークショップの成果は、挙げ出したらキリないんですけども、ちょっとピックアップすると、こういうことだったんじゃないかと思います。

一つはですね、ボランティアさんによる清掃活動は、今も実現しているということになります。

先ほど言った、月に1回みんなで寄り合う、そのついでに、ごみを拾うってことが、今でも実現しているし、そういうのが、業者さんとして入っているみなさんと、うまく共生しているところがポイントです。さらに、「市民で勝手にオープニングイベント」みたいなことで、丘に登って、「みんなで乾杯」って、たったそれだけの、どうでもいいイベントなんですけども、僕ちょっと行けなかったんですけど、伝え聞いた話によると、200人ぐらい集まって、盛大な市民ボランティア・オープニングイベントがあったらしい。

そんなことがあったりとか。

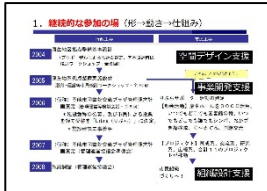
先ほど盆踊りの話も、実は、1つの町内では、とてもやれないんですけども、公園を核として、周辺の町内会、7つの町内会連合して盆踊りをやるってような動きにもなりました。

そういう意味では、今回の瑞穂公園の開発っていうか、手を入れることで、地域のコミュニティがより結束するとか、強くなるみたいなことが、起きてくるといいなという風に思いますし、他にも、僕もこれ伝え聞いた話なんですけども、「何十年かぶりに、籠田公園でラジオ体操が復活したらいい」みたいな噂も来たり、さらには、公園協議会というのを、今、作ろうとしていまして、「他の公園ではだめだけれど、籠田公園では、こうしよう」みたいな、ローカル・ルールみたいなものを、どう設定するのかっていう、そういう仕組みづくりが、今、進行中ということになります。



最後にですね、僕からは、今までの話は、公園に、どういう風に市民が関われるだろうかという話だったんですけども、今回、結構巨大な開発だと思うんですね。瑞穂公園の、この整備というのは。

その話と、ひょっとしたらなんですけれども、我々岡崎の方で、ある拠点施設を整備したり、あるいは街を、公園を整備したりした話と、ヒントになるかなと思って、3つばかりヒントを持ってまいりました。



一つは、継続的な参加の場というものを提案したいと思います。

図書館交流プラザ・りぶらは、ご覧のとおり、計画段階から実際の施設の供用開始まで、5年かかっています。

その意味では、初動期の段階では、いわゆる設計、計画に、空間のデザインに、どういう風に反映できるだろうかっていうフェーズと、さらには、この施設が豊かに運営されていくためには、どのようなコンテンツが必要だろうか、図書館のあり方、ホールのある方、国際交流のあり方、それぞれのテーマを持って、市民のみなさんが、ボランティア・グループを立ち上げていく、そういう活動を作っていくというような場面がありました。

さらには、その運営段階に、うまくフィットしていくために、どういう風な、ここでは、りぶらサポータークラブっていう、簡単に言うと、こういった施設のファンクラブみたいなものが、今、コミュニティとしてあるんですけども、そういうものを仕組みとして、作っていくという場面があったなというのがありますので、こういう段階的な形、さらに動きを作る、さらに仕組みを作る、この3段階を、ぜひ継続的な参加が必要じゃないかというのを僕からの提案1。



二つ目の提案としましては、現場の近くに拠点を作るっていうのを、岡崎では、やりましたっていう事例紹介ですけども、これ要するに、実際の図書館交流プラザ・りぶらの工事現場の近くにある空き店舗にある「えんスポ」と名付けられた、縁側スポットの略称なんですけれども、そういう場所を設けまして、そこには、いろんな模型とか図面とか、いろんなものがあるわけです。

実際に、そこに、携わっている設計者だとか、あるいは、僕のような市民参加のコーディネーターが出入りしていて、ふらっと市民のみなさんがやってきた時に、「今ね、りぶらの計画どうなっているの？」みたいな話が聞けるという、そういうような場がありました。

これちょっと、高い要求かも知れないですけど、瑞穂公園も「市役所に足を運んでください」じゃなくて、もうちょっと身近で、情報が取れるような仕組みがあるといいんじゃないかなというのが、二つ目。



そして最後、三つ目なんですけれども、この映像にあります左の上に、りぶらがあって、右の方に籠田公園があって、下の方に乙川（おとがわ）河川緑地があって、東岡崎駅があつてみたいな、そういうようなことで、今、りぶらを左端としつつ、「この全体の中心部の回遊性を高めよう」みたいな計画が岡崎市では進んでいて、これを名付けてQurwa（くるわ）構想と呼ぶわけなんですけれども、このQurwa構想を、より強化するために仕掛けたのが、我々NPOが勝手に仕掛けたんですけども、Qurwaボードというものでして、それぞれのりぶらの情報、籠田公園の情報、乙川河川緑地での情報を一元的に集約して、市民にお届けする、ということをやっています。そうすることによって、何があるかということ、何を狙っているかということ、図書館の、図書館交流プラザに来たよという人が、「あ、今度、

籠田公園でこんなことやるんだ」みたいなことで行っちゃうとか、あるいは河川緑地で来た時に「あ、今度、岡崎城に行ってみようかな」みたいなことが、起きんかなということを期待して、我々やってるんですけども、瑞穂公園も結構、文化小劇場だとか、図書館だとか、スタジアムがあったりとか、いろんな拠点施設があるので、連携した情報発信みたいなことが、できたらいいかなと思いながら、この図面を見ていたら、気付いたんですよ。

みなさん、首を左に傾けていただくと、乙川が、山崎川に見えてくるっていうことがあるわけですね。

こういう風にして、この川を核にしつつ、いろんな複数の拠点が、繋がっていくということが、瑞穂公園の位置づけにしたらいいなということを、僕は期待しているということになります。



最後、おまけなんですけれども、籠田公園で、コタツで楽しんでいる様子ということで、「公園は如何様にでも使いこなせるぞ」というようなヒントが、届けられたらいいなと思いました。

僕からは、以上になります。

ありがとうございました。